

# 長野県食と農業農村振興審議会北信地区部会 意見交換議事録

令和2年7月27日（月）13:30～15:50

北信合同庁舎 講堂

## 【意見交換】

（佐々木委員）

今後の方向性など踏まえて農業振興に向けた御意見・御提言をお願いしたいと思います。最初に資料で説明した中で御質問等がありましたらお願いします。いかがでしょうか。資料の方はよろしいでしょうか。

なければ、今後の方向性などを踏まえた中で、色々と御意見・御提言をお願いします。資料を踏まえて、皆さんから一言ずつ御提言を含めて何かありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。何かございますでしょうか。

特になければ、皆さん順番にそれぞれ何か御提言いただきたいと思います。高野委員さんから一言ずつ何か農業農村振興に当たって提言を含めて御意見・御要望等をお願いします。

（高野委員）

初めまして。農業経営者協会の高野と申します。新型コロナウイルスでこんなことになるとは思いませんでした。資料を読んでみました。農業という大変なものを維持していく、気になるのは、需要の大きいシャインマスカットへの支援は手厚いが、私の住む中山間地域に対してはあまり陽が当たっていないように感じます。

また、農業の基盤整備の中で用水路の整備は土地改良も関わっていますので、幹線水路は進んでいます。支線水路や受益が小さい水路は直せていません。いつ崩れるか分からないせぎ1本で水田何ヘクタールも支えているというところもありますので、大きなところだけでなく、小さなところもお願いしたいと思います。

それから、旧豊田村地区のぼたんこしょうにも適地というものがあるような気がします。辛いものがたくさん出回っているのは問題があると思います。認定するとか、品質向上を図れるようにしてほしいと思います。

（佐々木委員）

ありがとうございます。中山間地の用水の関係のこと、よろしくをお願いします。

（小森課長）

昨年、農業経営者協会の会合の中で、春になったら現地を見てくれと言われてまして、4月・5月はコロナの関係で行けなかったのですが、2週間前に雨が大きく降りましたので見させていただきました。その中で、去年も指摘されていましてせぎの脇がかなり崩れているところがあって、今年また高速道路沿いで新たに崩れていまして、一通り見させていただきました。今日、頓所課長も見えですが、今回の災害であれば災害で挙げさせていただいて、市の方で対応していただけることもあるようですので、協力してできるところはやっていきたいと思っています。

(高野委員)

ありがとうございます。山の中を通っている用水も危なげなところをもう少し認識していただきたいなと思います。

(佐々木委員)

あと、ぼたんこしょうの関係はいかがですか。

(小林補佐)

技術経営係長をしている小林と申します。よろしくお願ひします。

ぼたんこしょうの関係につきましては、県の信州伝統野菜認定制度ということでだいぶ前からやっているところですが、伝統野菜の認定につきましては、地域ですとか品種とか種を限定して認定しています。

伝承地栽培に認定されたぼたんこしょうは、生産者を限定して3年間は、信州の伝統野菜のシールを貼って、認定された人が生産したものにしか貼れないという制度になっています。そんなことで、品質とかそういったものは保たれていると思います。

それ以外に流通しているものもあるかと思いますが、県の制度ではこうした表示を行って品質を認定し生産振興に取り組んでいるところです。

(高野委員)

ありがとうございます。確かにやってるとは思うんですけど、道の駅なんかでも、ぼたんこしょうを見ますけれど、認識している方は少ないんじゃないかと思います。

(佐々木委員)

中野市さんよろしいですか

(頓所課長)

いいです。

(佐々木委員)

ありがとうございます。続きまして、市村委員さん、よろしくお願ひします。

(市村委員)

農業士の市村です。よろしくお願ひします。

色々とお話を聞かせていただきまして、色々思うところがございます。私は果樹中心の農家でありまして、果樹経営支援対策だとか産地パワーアップ事業とかを使わせていただいて、ぶどうの果樹棚や改植の支援をいただいておりますが、どうしても期間が限られているというかスピード感がありません。

説明会では来年この事業があるかどうかは保証できませんと必ず言われるんですよね。そういったことがあると、今年のうちは無理にでもやらないといけないのかな、りんごの畑を無理にでも抜

根して、ぶどう棚に替えるかと考えてしまう。もうちょっと我々農業者に熟考させていただきたいです。冬の時期によくよく考えて、来年か再来年に着工できるっていうのがよい。補助金を貰えるのが前提で農業やっているわけではないのですが、補助金があるなら貰いたいというのも人情です。来年もありますから大丈夫ですよ、焦らないでくださいっていう制度にしてほしい。

また、先日もコロナの対策をした人へ助成が出ますよという話があった際、先に何でもお金が出るというウワサが出回っちゃって、それで説明会に行ったんですけど、実は要件がめちゃくちゃきついことがわかって、私個人的に言う「ガッカリ補助金」なのかなっていう気がしました。

こういう事業にこれだけの補助金が出ますよというのではなくて、逆に農家からプレゼンをして、それを聞いて助成ができるのか出来ないのかっていうのを検討してもらいたいようなものがあったらいいんじゃないかなと思います。

若い仲間の中で、これやりたいんだよ、でも、これ助成出ないんだよ、どうしようかなできないかなって諦めちゃってるような例が結構あるので、そういったものも拾い上げてもらいたいと思います。

ここ中野市は果樹で若い農業者が多くて、若者の夢だとか熱っていうのを拾い上げてもらいたいなという感じでおります。

もう一つ、畑地かんがい事業について先ほどもお話ありましたが、私の住む中野市（の西）で畑地かんがいをやってもらっているんですが、去年も今年も大きなポンプを入れ替えていただいて、とても助かっているんですが、上流の大雨の影響でこの1か月間、千曲川から水を揚げられなくて、かん水施設どころか、農薬散布の消毒用の水まで確保できないという状況がありまして、そんな状況の中で、かん水施設の意味があるのかと考えてしまいます。

川へ行って水を取ったり、家庭用の水道から取って消毒したりしていますので、泥水で水が汚れているから揚げられないんじゃないじゃなくて、水が汚れてても、沈砂池を通してきれいな水にしてでも揚げられるような工夫を検討してもらいたいと思います。これから先、農業をやっていく中で水って一番重要ななと思っています。

それから、うちの周りでもそうなんですけど、農業はもう俺の代で終わりかな、という方がいっぱいいます。地主は畑を返されてももうできないかなと、そういった場合にどう農地を農地として残していく仕組みが作れるのか等が問題なのかなという気がします。

また、個人的ではありますが、アスパラの再生に関しましては、私の園地にも県の方が足を運んでいただいたんですが、正直回復しきれないところもありまして、今日もアスパラの園地の世話をしていたんですけども、家族と話して、あと1～2年だね、来年は採れるところは頑張るけど、再来年わかんないよねっていう話をしている、そういった中で、長ネギだとかそういった話を聞くんですけど、後作でもう1回盛り上げるというのも必要なかなという気がします。

(佐々木委員)

ありがとうございます。事務局の方から、補助金の関係と、畑地かんがい事業の関係と。

(唐沢補佐)

まず一つ目の、補助事業で来年もあるかどうか分からないという話ですけども、私どもとしても非常に心苦しくて、できれば2年3年かけてしっかり進めてもらいたい、そうすれば、計画的にできるだろうと言えるんですけど、事業がいつまであるかどうかは分からないというのが正直な

ところです。例えば産地パワーアップ事業につきましては、5～6年前からスタートして、成果も出てきてそろそろ終わりじゃないかという噂が流れてきています。本当は、来年も事業があるからこれから1年かけて考えて、来年のこの事業に乗るために何とかしましょうというように言いたいのですが。

二つ目のコロナ対策で、新聞等の報道でこういう被害受けたら100万円とかっていうのがありますが、実際に詳しく聞いてみたら、こういう条件でなければ受けられないっていうのがあります。

こういう助成は本当に被害にあって苦しい思いをしている人に使ってもらいたいと思います。できるだけ取り組んでいただけるようにこちらとしても支援していきたいと思います。

三つ目の、農家の方からこういうことやりたいんだけど、何か事業あるかという相談は、ぜひ農業農村支援センターの職員に一言言っていただければ、相談に乗りたいと思いますので、ぜひよろしくをお願いします。

また、農業が俺の代で終わり、残った農地が心配だというのは、まさに、私たちも同じ思いです。先ほどの資料にもありましたけれど、当地域の遊休荒廃地は県全域より3ポイント高く、遊休荒廃地がちょっと多いです。これについて我々としても何とかしていかなければならないと思っていますが、なかなか解消していかないという現状です。

今のところ農業委員の方、あるいは農地中間管理機構等と連携して取り組んでいますのでよろしくをお願いいたします。

(小森補佐)

私の方からは畑地かんがい事業の関係ですけれど、今年の19号台風のあとの2年くらい畑地かんがい施設が使えないんじゃないかといった状況も一時期議論されまして、すべてかんがい用水を千曲川に頼るといのは危険だなと痛感しました。中野西部地区、中野地区、他の地区も更新時期に入ってきておりますので、その時(台風19号災害時)検討したこともしっかり議論する中で考えていきたいと思っておりますのでよろしくをお願いします。

(佐々木委員)

アスパラの関係はどうでしょうか。

(小林補佐)

アスパラにつきましては、御意見のとおり、何度作付けしても、うまく作れないとか、そういった意見が聞かれます。資料の18ページにも載せてありますけれど、普及センター(現農業農村支援センター)の重点課題としていろんなことに取り組んできました。一番はこのところの豪雨等の湿害の影響がすごく多いんじゃないかなと思います。

また、ほかに最近では疫病という新たな病気も入ってきていますし、その疫病が水で拡大することもありますので、作付けする前に排水対策を万全にしておくことが必要かなと思います。

資料にありますとおり、新植ではカットドレーンとか、植えてあるところでは、縦穴を掘ってもみ殻をそこにいれるとか、そういった対策のためにいろいろな試験をしてきています。

また、アスパラガスはもともとアレロパシーと言いまして連作を嫌う作物ですので、そういった面でもほ場の設定とかしづらいんじゃないかなとは思いますが、なかなか思うように生産が伸びてこないというのが現状です。

その中で、長ネギというお話もありましたけれど、最近 JA のみゆき管内を中心に長ネギの作付けが増えています。作りやすく価格もまあまあということで生産が拡大しています。野菜経営の安定化に向けてそういったものも含めて、早急に進めていきたいと思います。

(佐々木委員)

続きまして佐藤委員さん、いかがでしょうか。

(佐藤委員)

飯山市から参りました佐藤です。私が所属しています飯山市農村女性団体連絡会なんですけれど、今年度は第5期を迎えまして、女性プランの策定に当たりましては支援センターの皆様いろいろな御支援をいただきまして、どうもありがとうございます。私たち農村女性が胸を張って生活していけるような思いを持ちまして作りました冊子なんですけど、これを糧にして生活していきたいなと思っております。

話は変わりますが、この長雨による農業の状態なんですけれども、キュウリなんかはとても品薄状態なんだというお話を聞いておまして、やはり施設栽培の大切さというのを思い知ったところでもあります。また、うちでもシャクヤクを栽培しているんですけども、今年はこちらの中野市産と出荷が重なってしまい、値が崩れてしまいました。施設栽培と露地栽培を重ねて値段が安定できるような状態になっていけばと思っています。

また、私達、学校給食に野菜を供給しているんですけど、学校給食におきまして、子供たちと年に一度なんですけど、一緒に給食を食べまして、いろいろな思いを伝えたりしております。子供たちも学校において、コメ作りであったり伝統野菜の坂井芋の栽培から販売まで行っております。それによって、子供たちのなかにも地元のコメであったり農作物に対して、思いが年々強くなっているような感じがいたします。

(佐々木委員)

何か、事務局の方から説明だとかありますでしょうか。

(唐沢補佐)

提言ありがとうございます。特に、施設化が重要だというのは確かだと思います。今後の振興に活かして参りたいと思っていますし、学校給食に提供していただいて、子供たちの農業に対する意欲が高まったというのは、正に食育として我々の望むところでありまして、今の活動をぜひ続けていただければと思います。

我々としてもそういった取組が広がっていくのを大変望ましく思いますし、これからも一緒に取り組んでまいりたいと思います。どうもありがとうございました。

(佐々木委員)

ありがとうございます。それでは、続きまして、阿部委員さん、お願いいたします。

(阿部委員)

栄村から参りました阿部です。皆さんのお話を伺っていると、とても難しいお話をされていて、

私のような者が来る立場ではなかったかなと恐縮しているところであります。

栄村は山間地でありますから、今は中山間地直接支払制度に入ってる者も多く、また、集落営農っていうのも非常に盛んです。苗作りから始めているんですが、最近は大形の機械を入れたことによって、おばあちゃん一人になって耕作できない田んぼとかも引き受けて、若い父ちゃんたちや兄ちゃんたちが頑張ってるやっています。

それに対する支払いも出るので、年寄りの人は苗作りの時に苗箱を機械に流すとかそういうことで少しずつ農業に関わっていたり、中高生が箱を流すだけだったらできるということで、今から教育していたりします。

新規就農者が栄村では資料の表を見るといっていませんでした。私の息子がうちにいるんですが、外に働きに行っています。農業で生活が成り立たないっていうのがなかなか大変なところで、専業っていうのは子供にもやれっていうのはちょっと難しいかなと思います。山間地なので農地が少ないんですね。だから、若い人も、兼業で勤めながらのお百姓というのが多いです。その連れ合いである女性の方がなかなかお百姓をしてくれません。

私が加工に携わっていることもあって、農業はしているんですが、勤めている若いお母さん達はどうしても休みの日は自分の自由が欲しいということでなかなか農作業に携わるということにはしません。お母さんがやらないということは、子供達が農業に携わるということもありません。小さなことでもいいので、子供達に手伝ってもらって、子供達に農業が必要なんだよということをぜひ教育したいと思います。

栄村の小学校では野菜を作っていて、それを直売所で売っています。栄小学校という名前で、野菜を売ったりとか、かがやき学級という障がいのある子供たちもいるんですけど、この子たちもクルミ拾いしたりとか、銀杏拾いしたりとか、ししこしょうを売ってくれたりしています。ししこしょうをうどんに練り込んだりなどアイデア商品を作ってもらっていますので、それを大人が実践して、商品として出せるようになったらいいなあと思っています。まとまらないですけど、何とかして栄村がこれ以上委縮しないよう農業に携わっていったらいいかなと思っています。

(佐々木委員)

ありがとうございます。よろしいですか。ぜひ、子どもたちに農業に携わってもらいたいと思います。続きまして、荻原委員さんお願いします。

(荻原委員)

荻原です。14 ページにありました新規就農者の関係ですが、やる人がいないと事業の組み立てがまずできないということは、前提の前提かなと思っています。人口問題にも当然大きく関わってくるわけで、そのひとつの例として、この頃私が思うのは、Uターン就農者で、奥さんの実家に旦那と一緒に帰ってきて子供もついてくるという例がこの頃増えてきています。

このことは大きなヒントかなと私は思っています。双方で一番大事な形になってくるのかなと思っています。それから、飯山市と農協と一緒に運営している農業研修センターがございまして、募集者の中にも具体的には農業をやるという例が始まってきていますので、もちろん北信州農業道場にも参画していただいていますし、受入れもまた、コロナの関係があって新しい生活様式の一つかなと思っています。

(佐々木委員)

ありがとうございます。続きまして、沼田委員さんお願いします。

(沼田委員)

飯山市農業委員の沼田と申します。我が家はきのこを栽培しておりまして、1年に1度の収穫と違いまして、年がら年中同じ仕事をしております。昨年、3月までに人・農地プランをまとめなさいという国のお話があって、新型コロナウイルスの影響のせいで集落の話し合いができないので、どうするんだろうと思ったら、1年延ばすという農水省のお話がありましたので、それでちょっと安心したんですが、先ほどありました、この土地、俺は作るけどそのあとはいないんだよという農家さんがいっぱいいると思うんです。それをなんとかしてでも次の世代につなげていかなければならないという大きな課題があるんですが、それを乗り越えるために人・農地プランを上手く活かして、小さいところは集落単位とかで、大きいところは地区ごととか、集落営農などの利用を進めている最中です。

そこには行政の方も農業委員も集落の方も関わってくださって、今の農地をなんとか次の世代にということを進めていたのですが、なかなか新型コロナウイルスの影響で話が前に進んでいかない、アンケート止まりになってしまっています。アンケートの結果が出て、まとめた中からどうやって地域で話し合っただけで農地を守っていくのかというのを、農業委員も関わりながら御支援いただきながら、と思っているところでございます。

助成金について先ほど、考える時間がなさすぎ、計画性がないというお話がありました。今回の新型コロナウイルスに対する助成金、経営継続補助金ですが、急なお話でしたが、きのこをやっている私にはとてもありがたい助成金でした。農業は色んな部門で助成金が出るんですが、きのこって農業じゃなくて林業の部類になってくるんです。助成金はなくて、スーパーL資金というような融資ぐらいしかありません。今回これがあって、きのこ農家には相当助かる人っているのかなって思います。

この助成金のこともあって、急遽こちらの支援センターに相談に来ました。私、相談に来て悪いかなって思いながら来るんですが、でも、支援センターの方では、相談に来てもらわないと分からない、見えないものもあるって言うんですよ。だから、知り合いの農家には、行きな行きなって言います。まずは、行ってみて相談してみなって言います。ほとんどの農家さんには相談に乗ってもらうなんていうのは頭にありません。そこの道筋さえあれば農家はもっと楽になるんじゃないかなと思いますので、なんかあったら相談に乗りましょう、気軽に行きましょう、そう言っていただきたいと思います。

(佐々木委員)

ありがとうございます。何か事務局からありましたら、どうぞ。

(唐沢委員)

ありがとうございました。先ほどありました、支援センターの方に相談に来るように我々も言いますけれど、他の仲間にもどんどん言ってもらいたいと思います。それから、きのこ農家に係る経営継続補助金については条件次第ということになりますけれど、高収益作物次期作支援交付金という支援制度がありますが、こちらもきのこ農家も対象になりますので、少ない金額ですけれども、ぜ

ひ活用していただければと思いますので、よろしく願いいたします。

(佐々木委員)

ありがとうございます。よろしいですか。続きまして、武田委員さん。

(武田委員)

御苦労様です。私、流通関係者ということで出席させていただいています。先ほどから、昨年度の実績を見させていただきました。ほぼ計画どおりに進んでいると理解しています。去年、台風の被害もあった中、これだけの数値を残した皆さんの御努力に感謝いたします。私、流通業者として、昨年の台風からコロナの市場流通に関しての情報を共有したいと思います。私たち青果市場なので流通の関係をお話させてください。

千曲川が氾濫して台風被害があったという情報が当時出たときに、弊社の取引先の手スーパー3～4社から、「長野県大丈夫ですか」「長野県の農産物を支援したい」と、大手量販店が産地に入ってきました。私たちはとても感動・感謝しました。長野県の農産物に対して、彼らはPRしたかった部分もあるんですが、これが流通なんだなと思いました。

そして、今回コロナ禍で、私たち流通業者はどうなるかなってものすごく心配しました。中野市内大変厳しかったです。学校給食がない、山ノ内町のホテル・旅館には全然お客が来ない、観光農園にも来ない、大変な厳しい数字でした。

ところが、流通業界、関東・関西、大手市場は逆に今回、コロナの影響で数字が伸びています。家で食べる、外食しない、ということの中で、流通業の数字は軒並みかなりいい数字になっています。何がいいかというと、密集しないようにと広告をほとんど出ませんでした。PRの広告を出さなくてもお客さんがスーパーに来たということで、青果等はかなりいい数字だそうです。

今、ネットを使いながらみんなでなんとかしようとしています。他の業界も苦しいと思います。観光業界とか、ホテル業界とか、輸送業者とか苦しんでいる業者がありますが、まだ私たちが携わっている一次産業は生きる道があるんじゃないかと感じています。弊社は須坂にありますが、水害に遭いました。いつか補填金を貰わないでできるような体制にしていかなければいけないと感じています。他の業種に比べて、農業に関して国はものすごくお金を補助金で出しているという話を聞いた時、いかに国が一次産業を大事にしているかわかりました。

今回のコロナの影響で海外から品物が入ってこないのも頑張らなければいけない。みんなでコロナを乗り越えて、長野県、北信を盛り上げていきたいと思います。私たち流通業者も皆さんと一緒に寄り添いながら取り組んでいきたいと思いますので、今後とも御指導よろしく願いします。以上です。

(佐々木委員)

ありがとうございました。続きまして頓所委員さんお願いします。

(頓所委員)

中野市の頓所ですが、よろしく願いいたします。先ほども荻原委員さんからも話があったんですけども、担い手でUターンの方が多いいというのは私も最近感じているところです。先ほどの資料の説明の中で、Iターンの就農者が3名だったという報告がありました。この数字が県内の中で



多いのか少ないのかというのは分からないんですが、わたしはこのIターンの就農者が増えれば、農地を借りたりしますので、荒廃農地対策に直結するというように考えていまして、この北信を選んでもらうために、合同就農相談会じゃないですけど、そういう内容の取組をこの北信地域全体でできないかなと思います。そしてIターンの就農者を少しでも確保できればいいかなと思っています。

また、私からお願いがありまして、先ほど資料の中で、地元の食の魅力の発信というところがあったのですが、今年も引き続き消費拡大やブランド力の向上を図りますという話がありました。中野市に今年度より、地域おこし協力隊員で、女性、20代なんですけれども、栄養士と調理師免許を持っていて、食から農業を活性化したいと食育にも積極的に取り組みたいという人で着任した隊員がいますので、ぜひ食育と連携させていただいて、関わらせていただければなと思っています。以上でございます。

(佐々木委員)

ありがとうございます。それでは続きまして江尻委員さんお願いします。

(江尻委員)

飯山市の江尻ですが、農業基盤整備の北信エリアで昭和45~46年の第一次構造改善事業から半世紀経ちます。至る所で、水路の水漏れなどの補修箇所が多くなっており、中山間や多面的のお金を使って自分達で手入れしてきた目地から水が漏れているとか、いろんな問題が出ています。中山間でいろいろな事業を抱えながらさらに大きなほ場整備したらどうかとの話もありますが、いずれにしても厳しい状況であることは間違いないし、強靱化対策で取り組めますが、いずれにしても施設の維持が厳しい。その辺について見通しだとか国へ要望等お願いしたいと思います。

中山間につきましては、中間管理事業を国の体制として進めていますが、本当に進めて大丈夫なのかと思うこともあります。私の住んでいるところでは耕作組合の4戸の農家の1人が半身不随となり活動できなくなりました。今後解散しちゃうと貸した人は機械持っていませんので耕作できずに荒れてしまう。そういう裏腹を持っていますので、みんなでやっていく体制が必要だと思います。

また、JAながの本所の皆さんと午前中話をしていたのですが、レジ袋農業廃プラの回収をやっております。ブルーシートだとか培養土の袋だとか農薬のプラスチック処分が非常に厳しくなっている。マルチや肥料袋の回収では土がついたり金属片が入っていたりすることも。レジ袋の有料化等も始まり、今後は組合員だけのプラスチック製品の改修等が一番の課題になるのかなと思う。

(佐々木委員)

ありがとうございます。何かよろしいですか。

(小森課長)

昭和40年代のほ場整備の話ですけど、昨年3点問題があり、畑地かんがいに関する基幹施設の問題、排水機場の問題、今のほ場整備の問題があります。中野飯山地域、ほ場整備が全県のなかでも早い時期に実施していまして、先ほど沼田さんの人・農地プランであったんですけど、80代の方

が水田農業をやっているのですが、今後どの年代がどのようにやっていくのかということと共に、今の施設のままであることは当然出来ませんし、その時にどうせ改修するならば、パイプライン化にするとか、自動給水栓を付けるとか、担い手へ集積するとかで、国もかなり充実した制度を作っており、地元負担がゼロになる制度が出来ています。江尻委員さんの発言のとおり、全てが担い手だけに集積されると草刈りであるとか泥上げであるとか、多面的な活動が非常に担い手の方に重荷になると思われる。この半年間、コロナや災害対応で話し合いなど行っていないため、検討を一緒にお願いしたい。

(佐々木委員)

事務局から何かありますか。

(三田所長)

今まで、御意見ありがとうございました。特に補助事業の関係、非常にスピード感がありすぎるという話がありましたけれど、やはり今、ほとんどこういう事業は国の予算ですが、国がスピード感を非常に持っていて、災害が起きるとすぐ現地に入って、農家の要望を聞いて、すぐ事業化しています。私たちが見ている、すごいスピード感だと思います。それはいいことでもあると思いますので、現在コロナに関する補助事業がいっぱいありますけれど、こなしていくのは大変というような状況もありますが、農家の方には何かありましたら支援センターに相談していただきたいと思います。また、農家におかれましては、常に事業があるという気持ちでこれをやりたいというのを考えていただいて、早めに準備していただくというのも大事なと思います。

また、遊休農地のこと、担い手が絡むと思いますが、先ほども委員からありましたけれど、外から来てもらうというのが必要なのかと思いついて、社会環境も、定年も70歳まで延びるとか、兼業もどうなるか、退職して家にいる人も結構いると思うんですけど、それがどうなるかっていう課題もありますし、コロナの新しい生活様式とかスマート農業とか、いろいろ環境も変わってきているので、逆に田舎の方がいいっていう人も出てくるかもしれない。そういった地域の魅力を発信していくことも今後の課題ですので、中山間地域の話し合いをしながら進めていきたいと思っています。流通の方からも色々と今日は貴重な御提言いただきましてありがとうございました。また、農業はやっぱり大事だということで、連携して団結していければいいかなと思いました。以上簡単ですけれど。

(佐々木委員)

上手にまとめていただきましたけれど、よろしいですかね。意見交換につきましてはここで終わりにさせていただきます、その他ということではなにかありますかでしょうか。特にありませんかね。なければ、本日の審議については以上とさせていただきますと思います。